

同窓会だより



第12期第1組 企画事務

市町村アカデミー研修「企画事務第12期第1組」同窓会(会 長 福山市 横関能照さん)第17回を開催いたしました。

平成27年7月11日(土)午後4時にJR桐生駅南口に集合、ホテルパークイン桐生にチェックイン、その後、幹事世話人の六本木和敏さん(桐生市総合政策部企画課人口対策室長)の案内により桐生市駅前「味処 ふる川」にて開催となりました。

懇親会にさきだち、桐生市の市政概要について、六本木和敏さんよりお話を伺いました。桐生織物や伝統の文化などのほか、桐生市の市制施行90周年(2011年)のパンフレットにより「懐かしさと新しさが交差する不思議なまち」桐生の取り組みを紹介していただきました。

いよいよ懇親会、さっそく、同窓会長の横関能照さん(福山市)の開会あいさつに続き、乾杯、にぎやかに懇親会はスタートしました。

参加者は、アカデミー指導教授であった東北大学大学院公共政策学部の宍戸邦久教授をはじめ、前田一貴さん(笛吹市・旧境川村)・同夫人清子さん、永原武敏(豊中市)・妻・睦子、國方秀樹さん(さぬき市・旧志度町)、佐々木謙一さん(佐世保市)、新井 豊さん(春日部市・旧庄和町)、郷 良則さん(羽村市)、山崎正史さん(鎌ヶ谷市)、そして豊中市から大東幹彦さん、澤田真希さんも参加して多彩で楽しい集まりとなりました。それぞれの近況報告に続き、昨年の第16回佐賀市開催の様子をDVDで鑑賞しながら、アカデミー研修当時のことなどを話題に、明日への英気を養いつつ、地元料理を満喫、懇親交流を深めました。恒例となった冊子「アカデミア」を囲んで記念写真のあと、近くのカラオケ店に会場を移して二次会を行い、「恒例じゃんけん大会」とともに大いに盛り上がりました。

翌日は、まちなか観光(桐生織の見学など)とご当地グルメを 堪能しました。低速電動コミュニティバス「mayu」乗車体験に よる移動にはじまり、群馬県指定重要文化財「天満宮社殿」の 見学を、地元ボランティアガイドとして活躍され、熱い思いで桐 生市の「まちの再生」に奔走する清水宏康さんと金居さん(元 群馬県庁経済局長)のお二人に丁寧かつ親切なご案内により行 いました。また、金居さんは私の大学時代の同窓生と群馬県庁で



同期だったと何い個人的にはとてもびっくりしました。縁は異なもの、世の中狭いな一と思いました。その後は桐生市近代化遺産「絹撚記念館(けんねんきねんかん)」・「桐生織物記念館」織物展示室に案内していただき、続いて「有燐館(ゆうりんかん)」では、休館日にも関わらず、たまたま出勤しておられた館長さんの粋なはからいで、「桐生からくり人形芝居館」の見学をさせていただき、伝統芸能を引き継いでこられた町衆の心意気を感じることができて大変ラッキーでした。昼食はまち歩き観光の拠点となっている「四辻の斎嘉」でご当地グルメの「ひもかわ」を煮込み鍋で、夏の暑さにも負けずフゥーフゥーいいながら、汗をかきかき美味しくいただきました。みなさんも低速電動コミュニティバスで一日ゆっくり、桐生市を訪ねられて、ぜひ乗車体験と町おこし再生をごらんになってはいかかでしょうか?お勧めです。

次回は、またまた東日本ということで新潟県新潟市にて、鈴木 康弘さんに幹事をお願いすることに決定し、お互いの健康と再会 を約するとともに、大変楽しい心のこもった同窓会にしていただ いた桐生市の六本木和敏さんの心遣いと最高のおもてなしに感 謝しつつ散会となりました。

大阪府豊中市 永原 武敏

第28期第1組 障がい者福祉政策

『着実・誠実・充実の3つの実を大切に』

平成27年9月20日、秋晴れの連休の中、昨年度実施された障がい者福祉政策の第1回同窓会を、みちのく・岩手県盛岡市で開催しました。

北海道から鹿児島県までの仲間12名と前川さゆり担当教授に も参加をいただき大盛況の同窓会となりました。

当時、私たちのクラスは7班60名で、障害者基本法、障害者総合支援法に基づく計画策定を担当している仲間が多く、講義



では「障がい者が暮らしやすいまちづくり」と題した、オリエンタルランドのバリアフリープロデューサーによる東京ディズニーリゾートの約30年の変遷が印象的で、課題演習では障がい者の移動支援をテーマに毎晩遅くまで語り合い友情を育みました。

同窓会の席上、結婚されたばかりや秋のイベントの対応で欠席された仲間の近況報告を各班長が行いました。約1年ぶりの再会を喜び、全国の仲間との絆をがっちり固め合ったひとときでした。

日々、障がいのある方と接する実務の中で、着実・誠実に業務に携わる大切さを再確認し、それぞれの自治体における施策の充実につなげるべく、2020年の東京パラリンピックまでの継続的な同窓会開催を誓い合いました。

翌日は現地幹事、クラス副幹事と共に遠野市、陸前高田市、一関市を巡り陸前高田市では東日本大震災の津波に耐え、新たな復興のシンボルとなっている「奇跡の一本松」に鎮魂の祈りを捧げ、約3年半の歳月を経た今もなお厳しい現状を見てきました。

盛岡市は石川啄木、宮沢賢治たちが青春時代を過ごした郷愁 あふれる城下町。歴史と文化に触れ、三大麺とせんべいを食べ 歩き満喫した同窓会でした。

来年度は神奈川県横浜市での開催を決め、既に新たな幹事が 日程調整に動き出しています。

また仲間との再会が楽しみです。

代表幹事 北海道白老町 小倉 雅彦



同窓会だより



第21期第3組 固定資産税課税事務(土地)

平成27年10月3日(土)、4日(日)、第21期第3組固定資産税課税事務(土地)の同窓会を岩手で開催しました。今回は7名の同窓生が参加し、また、増永元教授もお越しいただきました。

3日正午過ぎに一ノ関駅に集合した後、車で約1時間近く移動して陸前高田に入りました。印象的だったのは、復興工事で出た土砂を運ぶために空中に張り巡らされた巨大なベルトコンベアと奇跡の一本松でした。この現実の状況を目の当たりにして、悔しさ、歯がゆさ、寂しさなどが混じり合った複雑な感情にさいなまれました。

夕方に大船渡市に入り、そこで1泊しました。夜は、魚の「まんぼう」を食したり、農業者に転向した仲間の苦労話を聞いたりしながら、改めて再会を祝い、親交を深めました。

翌日は、まず大船渡市内を回りました。大船渡市内は復興 工事中の場所はまだ多いものの、商店や駅がしっかりと存在 し、着実に復興が進んでいるのを感じることができました。

その後、岩手が誇る世界遺産の中尊寺を訪問し、きらびやかな金色堂に息をのみ、奥州藤原家の栄華を感じたのでした。

今回、被災地を訪問したことにより、自治体職員として仕事をしていく上で何が一番大切かということを改めて考える機会になりました。自治体職員は、一度は訪問してみるべきだと思います。



同窓会の開催に当たり、岩手県内の移動や大船渡の宿の手配にご尽力いただいた一関市の伊東さん、金ヶ崎町の北條さん、大船渡市の細谷さん、どぶろくの差し入れをいただいた遠野市の多田さん、いろいろな調整をしてくださった久喜市の村田さん、ありがとうございました。

_ 増永元教授と同窓生の皆さんにおかれましては、次回また お会いできる日を楽しみにしています。

最後に、被災地の復興を衷心よりお祈り申し上げます。

東京都小平市 鈴木 威人

第28期第1組 高齢者福祉と介護保険

平成26年度「高齢者福祉と介護保険」第28期第1組(鈴木代表幹事)の記念すべき第1回の同窓会が、平成27年シルバーウィーク期間中の9月22日(国民の祝日)に、東京都中央区日本橋の「びすとろ家八重洲店」の萌の間で開催され出席しました。

この「高齢者福祉と介護保険」第28期第1組の研修生は、 北は北海道新冠町から、南は沖縄県浦添市まで、全国津々 浦々からの精鋭(?)50名であったため、なるべく多くの同 窓生が集えるよう、5連休と大型連休になるシルバーウィー クを狙っての開催になりましたが、かえって公務やら何やら で皆さんの都合がつかず、同窓生7名の参加という少々残念 な結果になってしまいました。ところが、ご多忙中にも関わらず、研修でたいへんお世話になった浅野先生、千葉先生の ご出席を賜りましたので、同窓生7名で浅野先生と千葉先生 を独占できるという、出席した者にはたいへん幸運な同窓会 になりました。

研修期間中「地域包括ケアのあり方と行政職員の役割」「被保険者に対する自立支援策」「地域における在宅支援のあり方」という演習テーマをめぐって連日議論をともにしたことが、浅野先生の笑顔と、千葉先生の秋田弁から思い出され、同窓会での話題も「日本一の福祉とは何か」「地域包括ケアシステムで一番大切なものは」等々、決して答えの出ない内



容となり、1年4か月前の研修期間中のように会話を交わし、 とても楽しく有意義な時間となりました。

今、同窓会だよりを書きながら、改めて市町村アカデミーでの出会い、交わした議論、その他全てのことがよい経験であったことを感じています。

最後に、楽しいひと時を与えてくださいました、浅野先生、 千葉先生、鈴木代表幹事、そして、同窓生の皆様本当にあり がとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

群馬県高崎市 青山 正樹